

もとす教道研会報 第50号 令和7年9月30日

発行所: 岐阜県モラロジー連絡協議会
Tel/058-214-6224 Fax/6225

道徳教育研究会で学びました！

第62回道徳教育研究会は、岐阜県下4会場にて開催されました。
(全国67会場) もとす教育者道徳研究会は7月24日(木) 瑞穂市
ココロかさなるCCNセンターあじさいホールで岐阜瑞穂会場を運営
しました。2年前から瑞穂市教育委員会のご支援を得て準備を進め、
最後のお世話役と奮闘しましたが先生方の参加は思うように伸びませ
んでした。参加者数43名中21名(48%)。平素の多忙感は夏季休業中
の研修に精神的・物理的にハードルが高くなるのか…と感じました。
瑞穂市立本田小: 伊藤智子校長、本巣市立土貴野小: 長屋和宏校長、
はじめ15名の先生方に参加費を出ささせていただきました。感謝

開会式は、芳賀智子(一色小)・渡邊慎一郎(本田小)両副会長の
進行で、国歌斉唱の後、岐阜県岐阜モラロジー協議会: 山口温朗会長の
開会挨拶、公益財団法人モラロジー道徳教育財団・東海ブロック:
関光利部長による主催者挨拶、瑞穂市教育長: 服部照様による来賓の
ご挨拶と続きました。

服部照教育長様には、研修の重要性や道徳科への
熱い思いと共に、歓迎のお言葉をいただきました。



開会挨拶
山口温朗会長



主催者挨拶
関 光利部長



来賓ご挨拶
服部 照瑞穂市教育長



進行
芳賀智子副会長
(一色小教頭)
渡邊慎一郎副会長
(本田小教頭)

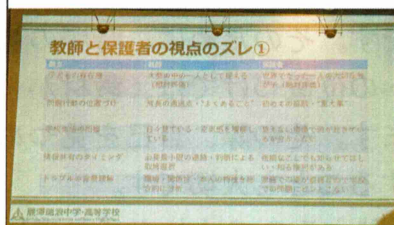
第1講「子どもの成長を支える“共育”の 力～学校と家庭が手を取り合うために～」

麗澤瑞浪中学高等学校 校長

藤田 知則 先生

「私は今、校長として学校を代表する立場
にあります。先生方の努力する姿や学校の
教育方針を伝え、保護者にご理解・ご協力
を得る役割があります。同時に、子どもを学校に通わせる保護者の
一人でもあります。学校と家庭が手を取り合い信頼関係が築ければ、
子どもたちの心強いパートナーとなるはずです。」

そうした理想的な関係づくりをめざして努力して来ましたが突然
懐疑的な思いに陥ることがありました。我が子が不登校傾向になっ
たのです。保護者の立場で考えると『大切な子をもっとしっかり見て
欲しい。学校での様子をもっと教えて欲しい』と思います。学校と家
庭の両方を知る者として、互いの『視点のズレ』を考えてみました。



『親子は一生涯初心者マーク』の自覚を
するならば、何より謙虚に学ぼうとす
る保護者が生まれます。学校は、『子
どもを信じる』考えに徹し、保護者と共に
課題に取り組む姿勢を大切にします。

子どもの成長を支えるためには、お互いが共に学び合い成長し合う
こと、つまり『共育』の精神で手を取り合うことこそ重要です。

しかし、『子どもを信じる』ことは生易しいことではありません。
悪態をつかれても無視されても、『本気で信じる』初心がブレないとい
う心の強さが必要になります。職務に誇りをもって歩みましょう」



講演中の藤田先生

第2講「道徳科の特質を生かし、『考え議論する』授業づくり～ねらいを明確にした学習活動（役割演技、ペア・グループ、書く）の工夫～」

岐阜聖徳学園大学教育学部非常勤講師

河合 宣昌 先生

「いただいた90分を①道徳科の特質について②役割演技等の学習活動の工夫について③中学校教材『足袋の季節』を使った授業の進め方について、の構成で進めようと思います。（紙面の都合上②の概略を紹介）

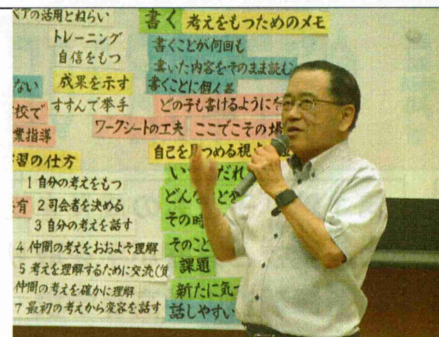
役割演技には、再現法・構成法・二重自我法があります。低学年向きと理解されがちですが、中学校生でも位置づけることが大切です。なりきれるような場を設定して体験を重ねれば、自分事として人間理解・価値理解を深められます。教師と子どもで演じ、観る側への問いかけの工夫でねらいにかかわる考え方や感じ方を確かにできます。

ペア・グループ活動は、何故ここでやるかのねらいを明確にし、教師と子どもがそのねらいを共有していることが大切です。子どもの学び方への慣れと教師のタイムマネジメント力がないと、有効な手立てとはならない難しさもあります。

書く活動のねらいは、考えをもつことです。そのために、時間の都合上、簡単なメモも有効です。学習過程への位置づけでは、教材から離れて自己を見つめる段階が有効になります。その際、自己を見つめる視点を位置づけたワークシートを工夫することも大切です。

そして『考え、議論する』が、討論や論破するのではなく『交流して深い学びを得る』こととして理解されるようになりました。最初の考えからどう変わったかを発言するような話型の指導を身に付けられるよう期待しています」

熱心に聴き入る会場の皆さん



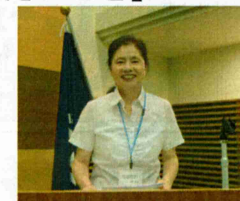
講演中の河合先生



第3講「道徳教育を充実させるために、今尋ねてみたいこと」

お二人の講師の先生に参加者が思い思いの質問をし、更に理解を深めようというコーナーです。進行コーディネーター役は大野琴美会計が務めました。

藤田・河合両先生には、懇切・丁寧なご回答を



大野琴美会計

していただきました。改めて両先生の優しいお人柄を知ると共に、道徳教育に対する見識の深さを感じる機会となりました。

ご回答の内容を紹介するのが本意だと思いますが、紙面上の制約もあり、ここは参加者の質問内容を要約することでお許ししたいと思います。

○河合先生←授業構想では価値把握が難しいと感じています。良いご助言があれば…

○河合先生←内容項目が多岐にわたる場合にはどう考え、どう判断すれば良いでしょうか…

○藤田先生←麗澤瑞浪中・高の素晴らしさはどんなところですか…

○藤田先生←コンプライアンスの難しい状況の中、若手の気づきを促すような方法とは…

○藤田先生←「絶対生徒を信じる」の信念を獲得されるようになったきっかけがあれば教えてください…

○河合先生←昨今「協働的な学び」「個別最適な学び」という言葉を聞きます。どう捉えるべきか教えてください…



閉会挨拶 森山会長 の挙手をしていただきました。【文責・森山】

閉会式は、もとす教育者道徳研究会：森山政紀会長が務めました。岐阜県で行われているモラロジーの教育支援の数々を紹介すると共に、講師の先生方や参加者に感謝の気持ちをお伝えさせていただきました。参加の先生方には満足と意気込み